

2020 年度遠隔講義オンデマンド超軽量級配信

応用物理学科 浅野 貴行

「はい！こんにちは。浅野です。」これは、2020 年度担当した遠隔（リモート）講義の際、オンデマンド配信した資料（音声）の第一声です。私が受験生の時代に紙質の悪い電話帳のようなテキストを手になや夜な夜な聴いていた大学受験ラジオ講座（旺文社）を彷彿とさせます。先日、今年度最初に録音した音声を聞き直してみました。その声は、当時のラジオから流れた各担当講師の美声とは異なり、残念ながら不安と緊張感に満ち溢れ、恥ずかしながら少々震えたノイズまみれの代物でした。毎回の講義資料としては、講義ノート（PDF 形式）とその内容を説明した音声（m4a 形式）の各ファイルを最大容量 10MB 以下に圧縮した超軽量級の配信でした。このようなオンデマンド講義を辛抱強く受講してくれた応用物理学科の現三年生（2018 年度入学）の皆さんが、投票に参加してくれたとお聞きしました。投票に参加してくれた皆さん、そして（選出理由は兎も角）浅野に印を付けてくれた皆さん、感謝いたします。ありがとうございました。今回、初めて（最初で最後かと思われませんが）の選出により、恒例の宿題として本稿の執筆依頼が舞い込みました。そこで、本年度の講義形式について、簡単に振り返ってみたいと思います。

本年度講義が開始される直前まで、講義形式や講義内容の配信方法を私自身決めることができず苦慮していました。他大学のそれは、大学毎に全く対応が異なり、本学がどのような統一的な対応を打ち出すのか？期待と不安、そして戸惑いを感じながら情報収拾に時間を費やしていました。（当時の）私が配信方法として唯一決めていたことがありました。それは、履修する学生の皆さんのネット環境に負荷をかける可能性のある大容量の動画配信はしないことです。その渦中、本学総合情報基盤センターHP の遠隔授業ポータルから著名な理論物理学者である田崎氏（学習院大学）が実施されている配信方法を知りました。その遠隔授業教材作成方法が（当時の）私が理想とする方法と合致していたので、間近に迫った担当講義の資料配信に向けたノートと音声の作成を急ピッチで行いました。この超軽量級配信の特徴は、いつでもどこでも手軽にスマホ一台あればノートを見ながら音声を聞き、聴講できることです。そして、毎講義の講義内容に準じる課題（全 15 回）の提出などを含めて、これら講義資料の配信は、本学の WebClass を使用して行いました。配信後の当の私は、指定された本来の講義時間に居室に籠り、講義資料や課題に関する質問の対応、課題の添削に費やしました。場所と時間は様々ですが、慣れない環境下で履修してくれた学生の皆さんからの質問（ときどき Google Meet にて対応）や講義資料の誤記指摘（細部まで読んで頂き、感謝です。）に何度か勇気付けられました。

今年度のリモート講義の形式や配信方法の評価については、講義後のアンケート結果や（選出理由は兎も角）今回の選出によって一定の評価？や支持？が得られたものとポジティブに解釈して、（残念ながら）来年度もリモート開講される講義の資料準備に励みたいと思います。しかし、個人的には、講義室において学生の皆さんと対面、面前で黒板を使っの講義（ライブ）が理想的であると感じています。その日常が早く戻ることを期待して・・・